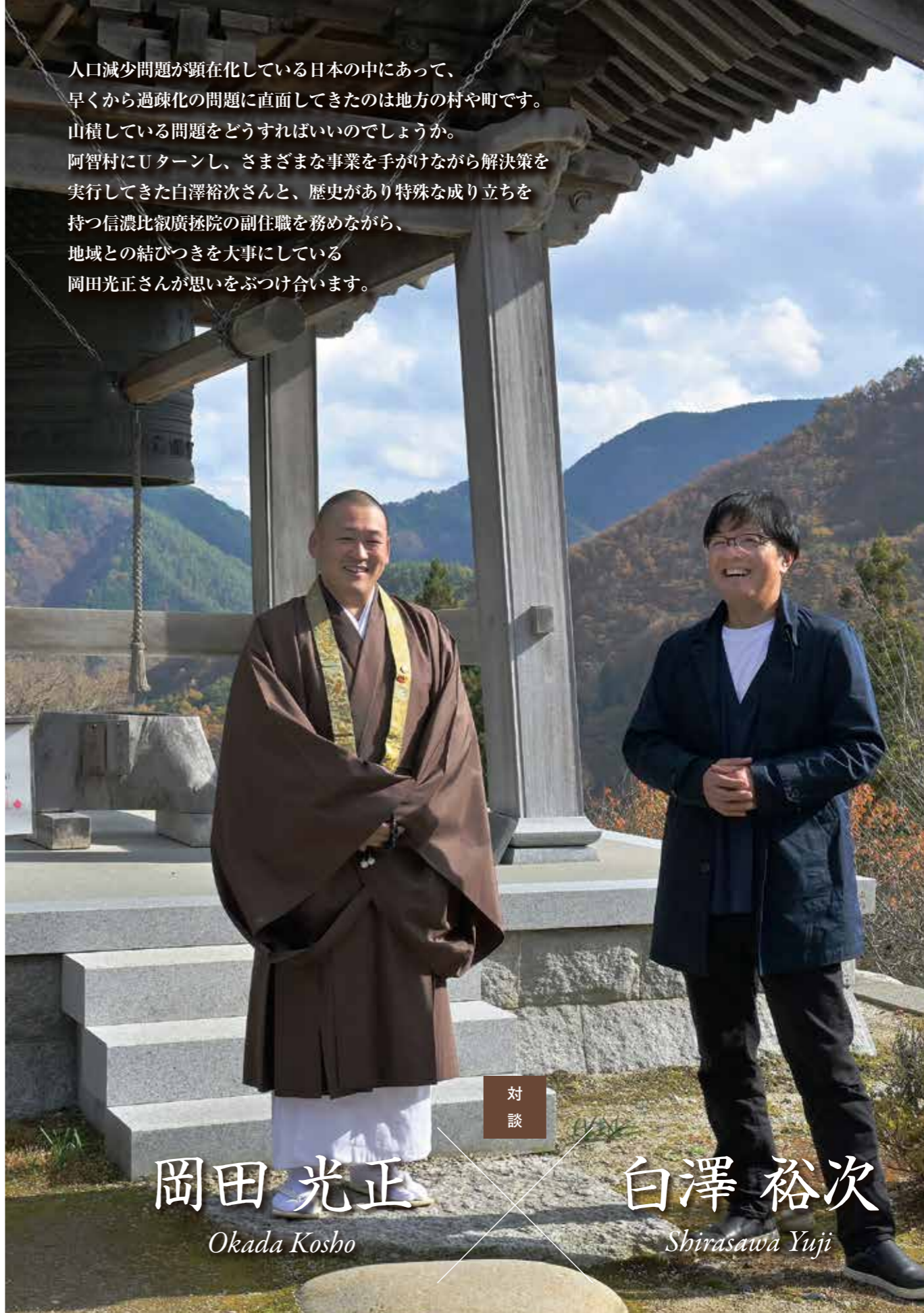


「阿智」

長野県下伊那郡の南西に位置する阿智村。古代には東海道と並んで畿内から東国へ通じる重要な道である東山道が通り抜け、神坂峠と網掛峠は東山道最大ともいわれる難所として知られ、旅人の往来で賑わっていた。武田信玄が飯田から三河に通じる伊那街道を整備し浪合関所を置いたり、江戸時代には伝馬と中馬が置かれたりと、交通の要衝としても栄えた地である。今号では、阿智という特色ある地域の歴史と文化を掘り起こし、これまでの歩みをたどりながら地域の未来について考えてみたい。

人口減少問題が顕在化している日本の中であって、早くから過疎化の問題に直面してきたのは地方の村や町です。山積している問題をどうすればいいのでしょうか。阿智村にUターンし、さまざまな事業を手がけながら解決策を実行してきた白澤裕次さんと、歴史があり特殊な成り立ちを持つ信濃比叡廣拯院の副住職を務めながら、地域との結びつきを大事にしている岡田光正さんが思いをぶつけ合います。



対談

岡田 光正
Okada Kosho

白澤 裕次
Shirasawa Yuji

昼神温泉が阿智村を変えた

白澤 私は阿智村で生まれ、十八歳で名古屋に出て、三二歳のときにUターンしてきました。今はいくつかのスキー場の経営とともに、阿智村が出資している第三セクターの株式会社阿智昼神観光局を八年前に設立し、代表をしています。

十年前に比べると、阿智の観光や阿智のまちづくりもずいぶん新しいものが入り入れられ進化していると思います。そこで、阿智の魅力はどう考えているかや、いかに観光を重要視しているか、それから未来に向けて、岡田さんのような若い方へ引き継いでおかなければいけないことなどを話していきたいと思います。岡田さんは阿智にいられて何年になりますか。

岡田 信濃比叡廣拯院（こうしゅういん）に来て十四年になります。

白澤 そんなになりますか。もう永住、決定的だと思いますね。我々もかかわっていることなので、阿智村のここ数十年の流れを簡単に話しますと、阿智村は、長らく農業が基盤産業でした。ところが偶然的な産物によって昼神温泉が生まれ、大きく運命を変えることになりました。当時の国鉄中津川線の延線計画によって、今の昼神温泉の地区をボーリングしていたらお湯が出てきた。今からちょうど五十年前です。そして昼神温泉ができたがゆえに、厳しい状況にあった農業から観光業を主要産業にするべく大きくかじを切るようになったんです。

阿智を 世界に誇れる 故郷に

